三番瀬

SANBANZE

自然環境の再生保全と地域住民に親しめる海の再生を目指して

千葉県

ちば

三　番　瀬

東京湾の中の三番瀬

① JR新浦安駅
② 猫実川
③ 行徳湿地
④ 新浜鴨場
⑤ JR市川塩浜駅
⑥ 市川漁港
⑦ 東京メトロ妙典駅
⑧ 江戸川（放水路）
⑨ 首都高速湾岸線
⑩ 真間川
⑪ JR二俣新町駅
⑫ ふなばし三番瀬海浜公園
⑬ 市川航路
⑭ 船橋航路
⑮ 海老川
⑯ JR南船橋駅
⑰ 谷津干潟
⑱ 東関東自動車道水戸線

の　位　置

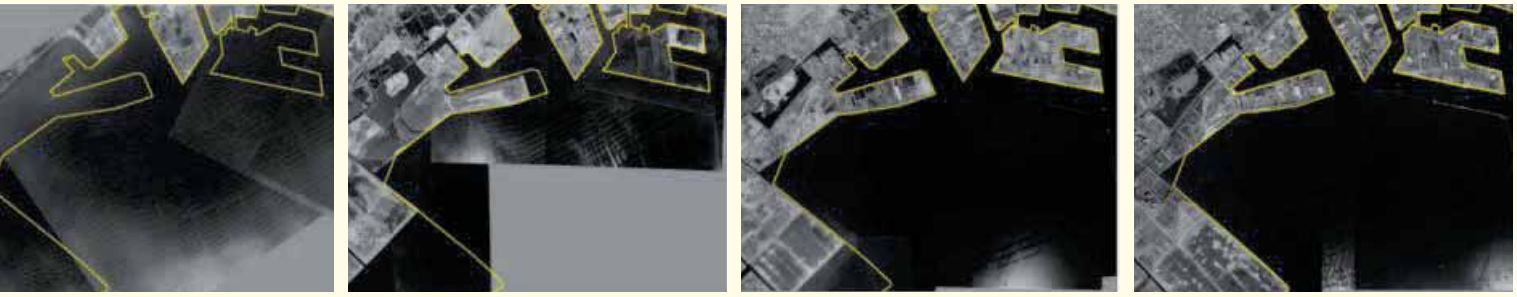
三番瀬は、浦安市、市川市、船橋市、習志野市の東京湾沿いに広がる約1,800ヘクタールの干潟・浅海域（浅い海）です。

江戸時代から豊穣（ほうじょう）の海といわれてきた三番瀬は、人々の生活とともに、その歴史を歩んできましたが、高度経済成長の中で東京湾の多くの干潟や浅瀬が埋立てられ、この三番瀬もさらなる埋立てが計画されていました。

しかし、残された自然を、次の世代へと引き継ぐため、千葉県は、埋立計画をいったん白紙に戻し、日本ではほとんど例のない公共事業中止後の計画づくりを、徹底した情報公開と住民参加のもとで進めてきました。

そして、地域住民、漁業者、NPOなどの皆さんと一緒になって議論を重ねた結果、自然環境の保全と再生を目指す「千葉県三番瀬再生計画」を策定しました。

この計画に基づいて、県民の皆さんと一緒になって、誰もが親しめる海の再生に取り組んでいきます。



昭和４０年　昭和４６年　昭和５１年　昭和５４年

三番瀬周辺の埋立地の推移（京葉測量（株））

三番瀬のあゆみ

三番瀬の昔と今

かつての三番瀬は、江戸川等から継続的に土砂や栄養分を含んだ淡水が流れ込むことによって広大な干潟・浅海域が形成されていました。そこには多くの生物が生息し、これらの恵みを生かした漁業が盛んでした。

しかし、戦後の高度経済成長の中で、大規模な埋立てや都市化により、三番瀬と周辺の環境は大きく変わりました。海域面積が減少し、河川とのつながりが弱まるなど、閉鎖的な傾向が強くなることで、自然環境の悪化や生態系の著しい変化、漁業生産の不振や水質汚濁を招くこととなりました。

関東水流図（静嘉堂文庫所蔵）

安藤広重画　行徳塩浜之図（千葉県立上総博物館所蔵）

干潟と浅海域、汽水域

干潟とは、潮の干満に伴って干出する場所で、底質や海水（塩分）の影響を受ける度合いによって、多様な環境が存在し、さまざまな生物たちがすみ分けをしながら、プランクトン～ゴカイ・貝類～魚類～鳥類にわたる食物連鎖によって特有の生態系を形成しています。この食物連鎖は、自然の浄化作用としての役割も担っています。

三番瀬のほとんどは水深5m以下の浅い海ですが、干潟とつながる浅海域は、多くの魚介類の産卵場や、稚魚から幼魚への生育の場としても利用され、生物にとって「ゆりかご」の役割を果たしています。

かつての三番瀬は、江戸川等から土砂を含んだ淡水が流れ込み、汽水域が広がっていました。多くの海の生物は、成長の過程で汽水域を必要としますが、現在は治水のため江戸川からの淡水の流入が断続的になり、三番瀬の環境は大きく変化していると言われています。

三番瀬の漁業

江戸時代から東京湾北部は「江戸前」と呼ばれ、幕府に様々な種類の魚介類を献上する「御菜浦（おさいうら）」として繁栄しました。明治時代後期にはノリ養殖も始まり、アサクサノリの産地としても有名になりました。

戦後以降、三番瀬の漁場環境は大きく変わり、アオギスやハマグリなどが見られなくなり、現在の主要な漁業であるノリ養殖やアサリ漁業も、年変動はあるものの生産量は減少傾向にあります。

海苔干し場（昭和４２年頃、浦安市堀江）
浦安市郷土博物館所蔵

埋立計画と白紙撤回

昭和の終わりから平成の始めにかけ、景気の好転や都市基盤整備の必要性を受けて、740haの更なる埋立てが計画されました。しかし、三番瀬の環境保全に向けての動きが高まり、県は三番瀬の埋立計画を101haに縮小しました。

この頃、公共事業と環境保全を巡る問題は全国的に高まりを見せており、三番瀬の埋立計画についても議論が続けられました。平成13年の千葉県知事選挙において、三番瀬の埋立ての白紙撤回を公約に掲げた堂本暁子候補が当選し、知事就任後、埋立計画の白紙撤回を表明しました。

徹底した情報公開と住民参加による計画づくり

県は三番瀬の埋立計画の中止を決定、徹底した情報公開と住民参加のもとで、三番瀬の再生のための計画を策定することとして、平成14年に、地元住民、公募で選ばれた県民、漁業関係者、環境保護団体、専門家等様々な主体の参加を得て、三番瀬円卓会議を設置しました。

円卓会議は、2年間にわたり議論を重ね、円卓会議案を知事に提出しました。県は、この提言をもとに、県の計画を策定することとし、知事の諮問機関として、「三番瀬再生会議」を設置しました。そして再生会議からの答申等を踏まえて、再生の目標や具体的な事業等を定めた「千葉県三番瀬再生計画」を策定しました。

三番瀬再生会議

平成４年３月	京葉港二期地区土地造成計画において、270haの埋立が計画される
平成５年３月	市川二期地区土地造成計画において、470haの埋立が計画される
平成10年６月	市川二期・京葉港二期地区土地造成計画の見直しを表明
平成11年６月	市川二期・京葉港二期地区土地造成計画の見直し案を発表（埋立予定面積101ha）
平成13年４月	堂本知事が埋立計画の白紙撤回を表明
平成13年９月	堂本知事が三番瀬の埋立中止を決定
平成14年１月	三番瀬再生計画検討会議（三番瀬円卓会議）設置
平成16年１月	三番瀬再生計画検討会議（三番瀬円卓会議）から、県に「三番瀬再生計画案」提出
平成16年12月	三番瀬再生会議設置
平成17年４月	県から三番瀬再生会議に「基本計画（素案）」諮問
平成17年６月	三番瀬再生会議から県に「基本計画（素案）」に対する意見を答申
平成17年８月	「基本計画（案）」についてパブリックコメント実施
平成17年10月	県議会三番瀬問題特別委員会設置（平成17年9月定例県議会）
平成18年３月	県から三番瀬再生会議に「事業計画（素案）」諮問
平成18年４月	「事業計画（素案）」についてパブリックコメント実施
平成18年10月	県議会三番瀬問題特別委員会委員長報告（平成18年9月定例県議会）
平成18年11月	三番瀬再生会議から県に「事業計画（素案）」に対する意見を答申
平成18年12月	基本計画確定
平成19年２月	事業計画確定

千葉県三番瀬再生計画

県では、三番瀬円卓会議からの提言をもとに、三番瀬再生会議からの答申、県議会での議論及びパブリックコメントを踏まえて、「千葉県三番瀬再生計画」を策定しました。この計画は、再生の理念や目標を定めた「基本計画」と具体的な再生事業を定めた「事業計画」とで構成されています。

千葉県三番瀬再生計画	基本計画	第1章　三番瀬の再生に関する施策についての基本的な方針 　第1節　背景 　第2節　再生の目標 　第3節　再生に当たっての進め方 　第4節　東京湾の再生につながる広域的な取組 　第5節　計画・交流区域 第2章　三番瀬の再生に向けて講ずべき施策（12節） 第3章　三番瀬の再生の推進方法 　第1節　事業の進め方 　第2節　推進体制
	事業計画	第1章　事業計画の概要 　第1節　事業計画の位置づけと計画期間 　第2節　第1次事業計画の構成と事業の時間軸整理 　第3節　第1次事業計画の目標 　第4節　第1次事業計画における主な取組 第2章　三番瀬の再生に向けて取り組む事業（12節）

基本計画

☆三番瀬の再生に関する施策についての基本的な方針

さまざまな種類の生物が都市化以前のように生息できる「生物多様性の回復」、干潟等の再生や自然な連続性が確保されている護岸の整備といった「海と陸との連続性の回復」、東京湾の水質改善を図り、生物にダメージを与える青潮の心配のないような「環境の持続性及び回復力の確保」、漁業者の経験を活かした「漁場の生産力の回復」、貴重な水辺である三番瀬に多くの方が訪れることができるような「人と自然とのふれあいの確保」という、再生の5つの目標を掲げています。

☆再生に当たっての進め方

事前調査と適切なデータ解析の実施や漁業者の知識を活用するという「科学的な知見及び漁業者の経験的な知見の活用」、環境へ与える影響に対する予防的な態度や目標に向けて少しずつ手を加えるという「予防的態度及び順応的管理」、いわゆるワイズユースの原則によるよう努めるという「賢明な利用」、様々な主体と適切な分担のもとに協働して取り組むという「協働による取組」の4項目を掲げています。

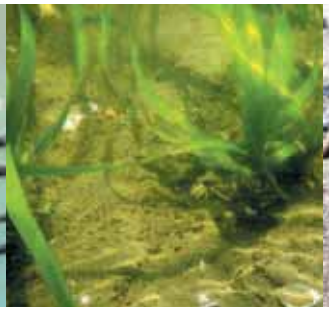
☆三番瀬の再生に向けて講ずべき施策

12分野に分けて記載しており、これらの詳細は事業計画で定めています。

☆三番瀬の再生の推進方法

事業の実施については、順応的管理によることとし、実施に係る計画の策定（Plan）、事業の実施（Do）、評価（Check）、対策の検討（Action）というマネジメントサイクル（PDCAサイクル）に則り進めることとしています。

ボラ


アマモ

コメツキガニ

ふなばし三番瀬海浜公園

ハマヒルガオ

写真：中村ひろ子

事業計画

第1次事業計画は、基本計画に基づく三番瀬の再生に向けた第一歩となるもので、平成22年度までの5年間を計画期間としています。

この間に取り組む事業として、既に着手している事業に加え、緊急性が高く早期着手が必要な事業や今後の具体化に向けて検討を行う事業等、44事業を位置付けています。

第1節　干潟・浅海域

土砂供給の回復や汽水的な環境の創出等、三番瀬の多様な自然環境を取り戻すため、自然がどのように変化するかを十分に観察しながら、干潟的環境の形成や淡水導入に関する検討・試験に取り組みます。

第2節　生態系・鳥類

健全で豊かな生態系や生物多様性の回復を目指し、後背湿地としての行徳湿地の再整備を進めるとともに、自然環境調査を定期的に実施し、三番瀬の自然や生物の中長期の変動を把握します。

第3節　漁業

生態系バランスのとれた豊かな漁場の再生を図るため、漁業者と連携して漁場環境の改善方法の検討や大量発生したアオサの回収・処理対策、藻場（もば）の造成に取り組むとともに、主要な漁業資源であるノリやアサリの調査・研究、漁業者と消費者を結ぶ「千産千消」を進めます。

三番瀬での漁業（写真：中村ひろ子）

三番瀬を訪れる鳥たち（写真：渡辺行雄）

第4節　水・底質環境

多様な水・底質環境の回復や流入河川及び東京湾の水質改善を図るため、海老川流域等の水循環系の再生に取り組むとともに、流入する汚濁物質を減少させる生活排水・産業排水対策の強化や水質汚濁の監視、青潮に関する情報提供等を実施します。

第5節　海と陸との連続性・護岸

現在の三番瀬は、海と陸との変化に富む自然なつながりが護岸によって断ち切られているため、安全性の確保と自然な連続性や生態系に配慮した護岸の改修を進めるとともに、海と陸との連続性の回復や人が三番瀬とふれあい・学ぶ場として、湿地の復元等、自然再生の実現に取り組みます。

市川市塩浜の護岸の改修

第６節　三番瀬を活かしたまちづくり

三番瀬の後背地には、直立護岸や高架鉄道等により海と街が切り離されている区域が広くあるため、まちづくりの主体である地元市と連携して、三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりを目指します。

第７節　海や浜辺の利用

人が海と親しめる場所や機会の確保を図るとともに、関係者の参加のもとで賢明な利用についてのルールづくりや的確な運用に取り組んでいきます。

第８節　環境学習・教育

三番瀬の再生に、より広範に多くの人々が関心を持ち、再生への活動に参加・体験できるよう、三番瀬の環境学習に関する検討委員会を設置し、環境学習・教育活動の支援や人材育成等を実施します。

第９節　維持・管理

三番瀬の再生に、多くの個人、団体が参加できる機会を提供し、多様な主体による友好的な協働がなされるよう、様々な形で再生に協力いただく三番瀬人材バンクの創設や、地元市・地域住民等によって行われている維持・管理活動の支援、流域の連携によるビオトープネットワークづくりなどを進めます。

海岸清掃

第１０節　再生・保全・利用のための制度及びラムサール条約への登録促進

三番瀬の再生・保全・利用の枠組みを明確にするため、条例の制定や谷津干潟と三番瀬の連携を考慮したラムサール条約の登録について、関係者との協議・調整を進めます。

第１１節　広報

幅広い県民の理解と協力のもとに三番瀬の再生を進めるため、インターネットなどによる情報発信や広報拠点（サテライトオフィス）の充実、イベントの開催を通じて、わかりやすい情報や三番瀬に触れ合う機会を提供します。

また、NPOの再生活動への支援や再生活動に取り組む個人や企業等が主体的に参加する三番瀬再生クラブ（仮称）の設立等、地域住民の参加や地域活動を支援します。

三番瀬フェスタ
（ＮＰＯ・市民による三番瀬の広報活動）

第１２節　東京湾の再生につながる広域的な取組

三番瀬は、流入する河川の流域や東京湾を通じて広く陸域と海域の影響を受けているため、一都三県、八都県市首脳会議による連携や、東京湾岸自治体の活動等を通して、東京湾の水質改善の取組や流域住民への啓発・イベントなど、広域的な取組を実施します。

三番瀬再生計画（事業計画）の施策一覧

事業計画の節	再生事業
第1節　干潟・浅海域	干潟的環境（干出域等）形成の検討・試験
	淡水導入の検討・試験
第2節　生態系・鳥類	行徳湿地再整備事業
	三番瀬自然環境調査事業
	生物多様性の回復のための目標生物調査事業
第3節　漁業	豊かな漁場への改善方法の検討
	アオサ対策
	藻場の造成試験
	ノリ養殖管理技術の改善
	高水温耐性ノリ品種の改良
	アサリの資源生態に関する総合調査
	アサリ生産対策
	漁業者と消費者を結ぶ取組
第4節　水・底質環境	海老川流域等の自然な水循環系の再生
	三番瀬周辺の県の管理する河川再生の検討
	合併処理浄化槽の普及
	産業排水対策
	流域県民に対する啓発
	江戸川左岸流域下水道事業
	総合治水対策特定河川事業
	青潮関連情報発信事業
第5節　海と陸との連続性・護岸	市川市塩浜護岸改修事業
	護岸の安全確保の取組
	自然再生（湿地再生）事業
第6節　三番瀬を活かしたまちづくり	三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりの取組
第7節　海や浜辺の利用	ルールづくりの取組
第8節　環境学習・教育	環境学習・教育事業
第9節　維持・管理	三番瀬人材バンク事業
	三番瀬パスポート制度（仮称）
	三番瀬の維持・管理活動の支援
	ビオトープネットワーク事業
	モニタリング方法、指標づくりの検討事業
	三番瀬自然環境合同調査実施事業
	三番瀬自然環境データベース構築事業
第10節　再生・保全・利用のための制度及び ラムサール条約への登録促進	三番瀬の再生・保全・利用のための条例の制定
	ラムサール条約への登録促進
第11節　広報	インターネットなどによる情報発信
	広報拠点活用事業
	三番瀬フェスタ開催事業
	三番瀬再生活動への支援
	三番瀬再生クラブ（仮称）の設立
	三番瀬再生キッズ育成事業
	三番瀬再生の広報に係る標語・図案等の検討
第12節　東京湾の再生につながる広域的な取組	国、関係自治体等との連携による広域的な取組

三番瀬の生き物—三番瀬にはどんな生き物がいるの？

三番瀬にはこのほかにもたくさんの生き物がいます。干潟を掘ってみると、アサリ、マテガイなどの二枚貝や

水鳥類

ハマシギ

10～5月ころにふなばし三番瀬海浜公園などで見られる。大群で飛び、一斉に方向転換する。

コアジサシ

春に南半球から飛来する夏鳥で、三番瀬周辺に営巣する。冬になると、また南半球へ飛んでいく。近年は営巣地の減少で、世界的にも希少種となっている。水中に一気に飛び込んで小魚をとる。

メダイチドリ

全長は20cmほどで、南半球とシベリアの間を旅する渡り鳥。三番瀬には春と秋に1ヶ月ほどずつ滞在する。

アオサギ

体長は1mほどある大型の水鳥。ボラなどの小魚を食べる。近年、東京湾岸で増えている。

カワウ

夏は三番瀬で魚をとり、冬は内陸の湿地で営巣する。整然とV字の隊列を組んで飛ぶ。

キアシシギ　アオアシシギ

春と秋によく見られる渡り鳥。ピューイピューイと泣き、干潟のゴカイや小さなカニを食べる。

スズガモ

10月～4月にかけて大群で見られる。シベリアからオーストラリアへの渡りの途中、日本に滞在する。全国の1/2以上の個体が三番瀬に寄っているといわれる。潜水してアサリなどの貝を殻ごと食べる。

ミヤコドリ

珍鳥だが、三番瀬ではこの十年で飛来数が増えており、数十羽の群れが越冬する日本唯一の場所となった。最近では夏も留まるものもある。赤いくちばしと足が特徴。

チュウシャクシギ

大型のシギ。下に曲がった大きなくちばしが特徴。巣穴に潜むカニなどを食べる。

ハジロカイツブリ

水中に潜って子魚やエビ・カニなどを食べる。シベリアで繁殖し、日本で冬を過ごす。

魚類

イシガレイ　マコガレイ

イシガレイは、冬に三番瀬の周辺などで卵からかえり、稚魚が三番瀬にきて幼魚期をすごす。5月ころになると7～8cmになり、沖合へと出て行く。三番瀬ではマコガレイよりもイシガレイの稚魚のほうが多い。

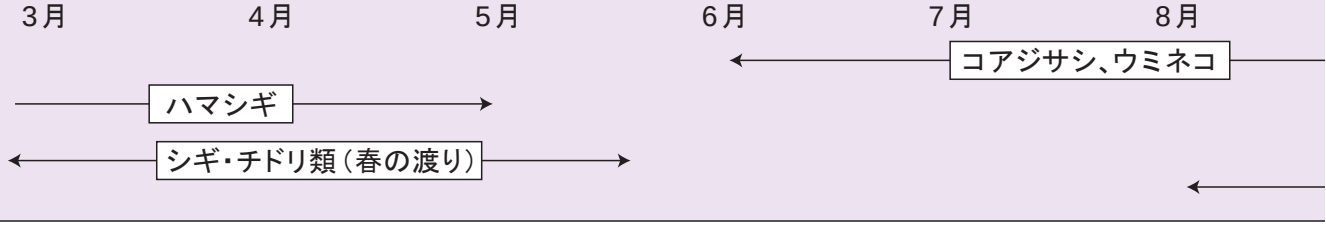
マハゼ

全長約10cm。秋に海底に2m以上の穴を掘り、冬にその中に産卵する。春に卵からかえり、ゴカイなどを食べて育つ。稚魚から成魚まで三番瀬に生息し、三番瀬の代表的な魚である。

ボラ

ハク、オボコ、イナ、ボラ、トドと成長に伴って名前を変える。水底の砂や泥の中の小さな生き物を食べる。

鳥ごよみ



写真提供:浦安市郷土博物館（マコガレイ、ボラ、マハゼ、アカエイ、バカガイ）・田久保晴孝氏（コアジサシ、キアシシギ、アオアシシギ、カワウ、ミヤコドリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、

ゴカイなどを見ることができます。鳥を観察するときには、双眼鏡を持っていくとよいでしょう。

底生生物

タマシキゴカイ

成虫

フン塊

卵塊

海底にUの字の穴を掘り、砂や泥に含まれる栄養分を食べる。海のミミズのような役割を果たす。

コメツキガニ

体長1cm程度の小さなカニ。干潟に見られるたくさんの小さな穴の主。砂の表面のプランクトンなどを食べる。

↑巣穴の周りには小さな砂玉が沢山ある。

ユビナガホンヤドカリ

三番瀬に多く見られる。いろいろな巻貝の殻をすみ家にしている。磯にいるホンヤドカリに比べて足が長い。

アナジャコ

泥質の海底にY字型の穴を地中深く掘って巣穴とする。巣穴の深さは3mほどにもなる。海水中のプランクトンや有機物を食べる。

ニホンドロソコエビ

泥質の海底に生息。

マテガイ

細長い二枚貝の一種。普段は、細長い巣穴に隠れているが、巣穴の入口に塩をふると飛び出してくる。

バカガイ

別名はアオヤギ。斧足が寿司種として知られている。

シオフキガイ

アサリより丸みのある二枚貝。三番瀬によく見られる。

マメコブシガニ

前後に歩く珍しいカニ。

アサリ

三番瀬に多い二枚貝。
春と秋の年2回産卵する。

スズキ

（稚魚）
コッパ、セイゴ、フッコ、スズキと成長に伴って名前を変える。稚魚と一部の成魚が三番瀬周辺で過ごす。ゴカイ、カニ、小魚などを食べる。

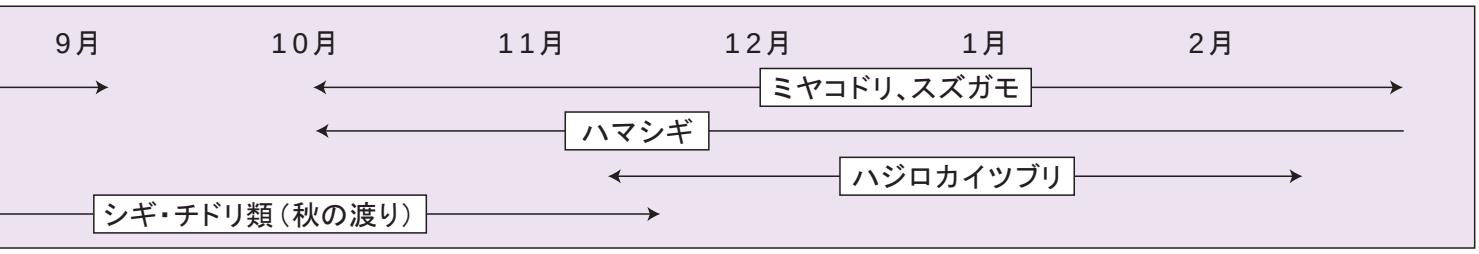
アカエイ

河口や干潟・浅海域の砂泥底にすむ。尾部背面の棘に毒があるのでさされないよう注意が必要。

藻類

オゴノリ

刺し身の「つま」に利用。（生で食べることは不可（食中毒をおこす。））



アナジャコ）・浦安まるごと探検隊（マテガイ）・三番瀬市民調査の会（タマシキゴカイ（成虫・卵塊）、マハゼ、オゴノリ）・小林恵子氏（コメツキガニ、タマシキゴカイ（フン塊））

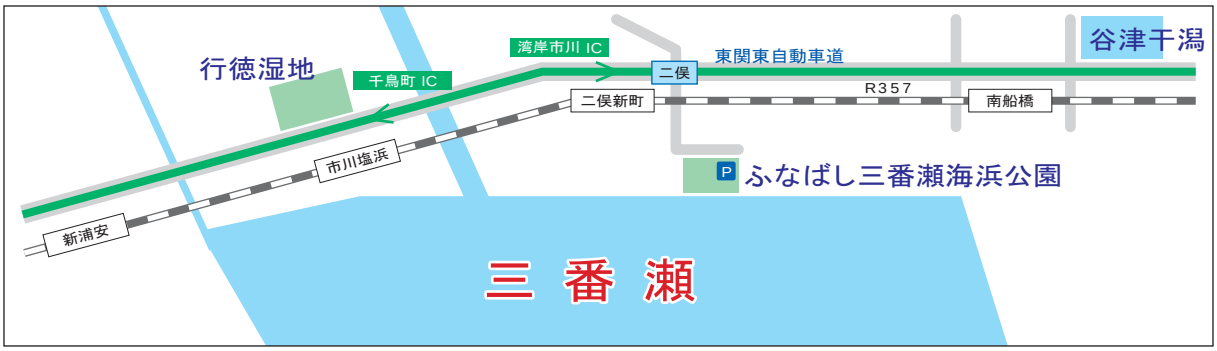
【三番瀬へ行くには】

○ふなばし三番瀬海浜公園

春から初夏にかけて潮干狩りが楽しめます。三番瀬を訪れる渡り鳥の姿も見られます。

所在　船橋市潮見町40
TEL　047-435-0828
開園時間　午前9時～午後5時
休園日　月曜日（振替休日は火曜日）、祝日の翌日（祝日が金・土曜日の場合は次の火曜日）、年末年始、不定休あり
交　通　JR総武線船橋駅南口・京成船橋駅またはJR京葉線二俣新町駅から「船橋海浜公園」行きバスで終点下車
車利用の場合
東京方面から　首都高速湾岸線　千鳥町インターより国道357号線千葉方面へ直進。二俣交差点右折、船橋中央埠頭内へ。
千葉方面から　国道357号線東京方面へ直進し、二俣交差点左折、船橋中央埠頭内へ

※このほか、市川・浦安側の海岸からも三番瀬を望めますが、護岸改修工事等で立ち入れない区域があります。海岸線まで、JR京葉線市川塩浜駅から、約0.6～1.1キロメートル。JR京葉線新浦安駅から約1～2キロメートル。



【三番瀬を知るには】

○三番瀬サテライトオフィス

三番瀬再生会議や三番瀬の自然環境等に関する資料の展示・閲覧等ができます。

所在　船橋市本町1-3-1 フェイスビル7階
TEL　047-424-8425
開館時間　月～木　午前11時～午後7時
金・日　午前9時～午後4時30分
休館日　土・祝日および年末年始
交　通　JR総武線船橋駅から徒歩1分、京成船橋駅から徒歩1分

○千葉県文書館

「千葉県三番瀬再生計画」、「三番瀬の変遷」や「三番瀬自然環境データベース」に収録された調査結果等が閲覧できます。また、行政資料の有償頒布も行っています。

所在　千葉市中央区中央4-15-7　TEL　043-227-7555
開館時間　午前9時～午後5時（1階行政資料販売コーナーは4時30分まで）
休館日　日曜日、祝日、館内整理日、特別整理期間、年末年始

【周辺の施設】

○行徳野鳥観察舎

野鳥が観察できるほか、図書室、視聴覚室、展示室が利用できます。

所在　市川市福栄4-22-11　TEL　047-397-9046
開館時間　午前9時～午後4時30分
休館日　月曜日（祝日、振替休日は火曜日）、年末年始

○谷津干潟自然観察センター

「ラムサール条約登録湿地」となっている谷津干潟とここに飛来する鳥たちを中心とした自然観察・学習センターです。

所在　習志野市秋津5-1-1　TEL　047-454-8416
開館時間　午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日　月曜日（祝日、振替休日は火曜日）、年末年始

※ 開館（園）時間、休(園)館日等は、平成19年3月現在

（表紙写真 上:渡辺行雄、下:中村ひろ子）

平成19年3月発行

千葉県総合企画部 企画調整課 三番瀬再生推進室
〒260-8667　千葉県千葉市中央区市場町1-1　電話 043-223-2439
ホームページ: http://pref.chiba.lg.jp/sc/sanbanze
e-mail: sanbanze@mz.pref.chiba.lg.jp